

はじめに

農学部附属農場長 坂田 祐介

明治41年（1908）、勅令第68号によって創設された鹿児島高等農林学校の実験実習農場は、その後の時代の流れとともに幾多の変遷を経て、農学部附属農場として現在に至っています。平成17年度は、創設100周年を3年後に控える97年目にあたり、そろそろ節目の年を迎えようとしています。

平成16年4月にスタートした国立大学の法人化にともない、附属農場も、法人化された大学の学部附属施設の一つとして新たなスタートを切らざるを得なくなったことは周知の事ですが、法人化後2年目を迎えた本年度になって、大学や学部の目指すところに添うかたちでの農場独自の教育研究体制の構築や、運営の効率化とスリム化にかかわる具現化の足並みが、ようやく揃いつつある状況にあると云えます。

本附属農場は、5つの付帯施設からなる非効率的な分散型農場でありながら、これまでに、年間400名を超える学生に対して20余単位に及ぶ農場実習をこなしてきたこと、あるいは本農場の規模に相応する生産を難儀の末あげてきたことなどを鑑みますと、教育研究や運営上の疲労が知らず知らずのうちに蓄積されてきており、このことが、本来あるべき附属農場としての「かたち」を歪めてきたのではないかと考えられます。

このような事態から脱却するために、本年度は、附属農場の抱える様々な問題を拾い上げ検討し、新しい施策のもとに、学部のフィールドサイエンスセンターとしての機能を十分に発揮できる「新たな附属農場の有り様」に基づくシステムを構築していきたいと考えています。

ここに、農場年報平成17年度版として附属農場における教育・研究および農場運営の結果を取り纏めてお届けします。学内外の関係者各位には今後の一層のご支援をお願い申し上げます。